

群馬県立伊勢崎高等特別支援学校 学校評価一覧表（令和6年度版）

（様式）

羅 針 盤			関係する分掌等	方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等				
Ⅰ 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えてありますか。	①情報発信の方法・内容・頻度について保護者や地域の方の80%以上から満足を得ている。	・教頭 ・進路指導主事 学年主任 ・教育情報係 ・渉外部長	・学校全体の行事の様子について、学校便りを随時発行する。 ・進路便りや学年通信は月1回発行する。 ・学校生活の様子や外部への情報提等については随時Webページに掲載する。 ・年2回PTA新聞を発行し、保護者や関係機関へ配付する。	A	A	A	・学校だよりが月に1回のペースで出されたことは良かった。画像も保護者にとってわかりやすく良いと思われる。また、学校だよりからは、各学年や学校全体の行事の様子がよく伝わってきた。 ・進路だよりや学年通信も12回発信できたのは素晴らしいと思う。 ・Webページの更新が行えていることは大切。 ・更新したら「更新しました。見てください」等、メールが何かで伝えることも検討したら良いのではないかと。あるいは、生徒全員が持っているiPadをうまく活用しても良いのではないかと。 ・PTA新聞も2回発行して活動内容が伝えられたことは良かった。 ・PTA活動の内容を保護者や関係者に伝えることができています。	・必要な情報を厳選し、各種便りで生徒の学校生活の様子を発信する。また、多くの方に向けた発信の方法として、Webページの活用を促進する。	
		②学校公開や学校見学会の内容について保護者や地域の方の80%以上から満足を得ている。	・かえて祭実行委員長 ・教務主任 ・進路指導主事	・令和5年度に新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことを考慮しつつ、令和5年度と同規模程度に11月にかえて祭を開催する。 ・中学3年生を対象に、学校見学会や産業科授業体験会等を実施し、適切な進路選択ができるよう情報を提供する。中学1、2年の生徒には、希望があれば適宜個別に学校見学を行う。 ・5月に5日間（1学年）、6月に5日間（2、3学年）、10月に3日間（全学年）の授業公開日を設定して在校生保護者に授業の様子を見てもらう。 ・今後の実習先や進路先開拓のため、ハローワークと連携して、企業採用担当者学校見学会を実施する。	A	A	A	・かえて祭では、受付や企画会場入り口にアルコール除菌スプレー等を設置し、令和5年度と同規模程度にかえて祭を開催した。来場者数は昨年より増加し大変盛況で、展示や販売について好評だった。 ・中学3年生を対象に行った2回の学校見学会と臨時の学校見学会では、生徒、保護者、教員合わせて187名の参加があった。本校を第一希望の中学3年生を対象に行った産業科授業体験会と臨時の産業科授業体験会では、生徒、保護者、教員合わせて89名の参加があった。昨年度比1.5～2倍増の参加者数であった。 ・2月7日に県労働政策課及びハローワークと連携して、企業採用担当者学校見学会を実施した。昨年度と同様に26社45名が参加し、数社が次年度の新規現場実習先の候補となった。	・地域の方々や入学希望者、卒業生など多くの方が来場しやすいかえて祭を開催する。 ・学校見学会や産業科授業体験会について、来年度も参加者数によって、日程を別日に設けるなどの対応をしたい。 ・企業採用者学校見学会について、来年度も20名の参加を目指して新規開拓を行ってきたい。	
		③保護者や関係機関との話し合いの方法・内容・頻度について、保護者の80%以上から満足を得ている。	・担任 ・各学年主任 ・教務主任 1学年担任 ・教務主任 3学年担任	・本人及び保護者のニーズを把握するために保護者との個別面談を実施し、個別的教育支援計画の作成に生かす。また、現場実習の前後も個別面談を実施し、実習の評価や反省、今後の課題について確認する。 ・学期に1回程度学年保護者会を実施し、学校やクラスの様子を伝え情報交換を行う。 ・8月に中高連絡協議会を実施し、新入生の入学後の様子を出身中学校へ伝える。 ・新入生への指導支援がスムーズに継続されるよう、中学校の卒業式後に入学予定者移行連絡会を実施し、中学校と情報交換する。また、3月末には入学予定者の保護者とも個別面談を実施する。	A	A	A	・適宜、個別面談時に保護者と個別的教育支援計画や実習について確認することができた。 ・学校生活の様子、実習の詳細な情報、学年行事の説明など様々な事柄を話題にして保護者会を実施することができた。質問等も受け、情報交換も行った。 ・8月1日に実施した中高連絡協議会では、1年生の出身中学校11校中10校の参加があり、有意義な情報交換を行うことができた。	・12月の面談週間は進路部と情報交換しながら日程を決めるとよい。（2・3年） ・中高連絡協議会を8月1日開催にしてから参加校が増えたので来年度も8月1日に開催したい。	
Ⅱ 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	④地域住民や地域の学校との交流を通じた学びの支援について、地域住民や保護者80%以上から満足を得ている。	・地域交流係	・伊勢崎興陽高校との交流では、指導者間の事前打合せを密に行い、お互いが学び合える交流活動にしていく。 ・境公園愛護会の一員として、境公園の環境美化活動を行う。 ・読み聞かせのじの会との交流では、一緒に季節の歌を歌ったり紙芝居を楽しんだりして豊かな情操を育む。普通科全学年の生徒が参加し、年2回実施する。 ・元町ゲートボールクラブとの交流では、ゲートボールゲームを通して地域の方々といれあう経験をし、豊かな人間形成を図る。	A	A	A	・伊勢崎興陽高校との交流では、指導者間の事前打合せを綿密に行い、学び合える交流活動にしていく。 ・地域住民との交流を目的としたじの会の読み聞かせや、境公園愛護会との環境美化活動の交流では、状況に合わせて実施方法や活動人数を検討し、継続して行うことができるようにする。	・来年度も伊勢崎興陽高校、じの会、境公園愛護会、元町ゲートボールクラブとの交流を、状況に合わせて実施方法や活動人数等を検討し行いたい。	
		⑤地域の幼・小・中・高等学校等の相談・支援に90%以上応じている。	・専門アドバイザー	・要請に応じて中部エリアの高校に巡回相談を実施するとともに、メールや電話、オンラインによる相談も実施し助言を行う。 ・本校がセンター的機能を担っていることを周知していただけるようホームページを工夫する。 ・専門アドバイザー利用の方法として外部専門家派遣やケース会議の進行等もできることを伝える。	A		A	・今年度は、中部エリアの高校からの相談依頼の他に、中学校からの進路相談も何度か受け、100%応じてくれた。 ・「センター的機能について」のリーフレットを作成し、ホームページに掲載した。	・引き続き、相談依頼に100パーセント応じるとともに、助言内容の充実にも努める。 ・リーフレットを定期的に見直す。	
		⑥地域の学校に対して特別支援教育に関する情報提供を行い、方法・内容・頻度について関係者の方の80%以上から満足を得ている。	・専門アドバイザー	・特別支援教育に関する情報を「アドバイザー通信」の形でまとめ、定期的に発行する。 ・依頼に応じて校内研修等で研修を行う。	C		C	・中部地区の普通高校向けに「アドバイザー通信」を12月に発行した。 ・校内研修の依頼には100パーセント応じている。 ・学校評価のアンケートの項目で、学校外の学校職員に向けた講演会を実施しているかどうかの項目があり、今年度行っていないため、このような評価になった。	・アドバイザー通信の発行はこれからも続けてほしい。 ・校内研修の依頼をすべて受けていることは素晴らしい。 ・できるならば、学校外の職員に向けた講演会も実施できるとよかった。	・「アドバイザー通信」を定期発行化する ・講演会だけにこだわらず、中部エリアの各学校の特別支援教育コーディネーターを対象とした研修会や事例検討会を計画する。 ・アンケート項目を検討する。
Ⅲ 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	⑦個別の指導計画の作成方法や内容について保護者の80%以上から満足を得ている。	・教育相談係 ・各学年主任 ・研修係	・アセスメントの実施を通して、アセスメントの結果を個別の指導計画作成時の参考資料とする。 ・アセスメントの実施を通して、一人一人の学習課題などの実態を把握し、アセスメントの結果を資料として個別の指導計画検討会を学年毎に年間2回実施して、指導支援のあり方や今後の課題について話し合う。 ・TTAPの活用に係る研修会を年1回実施する。	A	A	A	・アセスメントの結果は個別の指導に大変役立った。それを活用して作成した自立活動の目標は2回の検討会で他のクラスの担任とも情報を共有し、改善することができた。 ・年度当初にTTAPの活用に係る研修会を実施し、個に応じた指導への活用について共通理解を図った。	・職員異動があることも踏まえ、来年度もTTAPの活用等、アセスメントの研修を実施する。 ・生徒1人1人の課題を把握する為、引き続き、個別の指導検討会を実施する。	
		⑧「個別的教育支援計画」の内容について保護者の80%以上から満足を得ている。	・担任 ・各学年主任	・家庭と学校で連携して指導支援ができるよう、個別的教育支援計画について個別面談で保護者と目標・内容を確認する。 ・一人一人の目標や課題についてこまめに修正・確認する。 ・個別的教育支援計画のねらいについて教職員間で共通理解を図る。	A	A	A	・個別的教育支援計画を個別面談で保護者と目標・内容を確認することによって、学校と家庭が共通理解の元、指導支援を行うことができた。	・来年度も、学年保護者会や面談等で保護者への丁寧な説明をし、学校と家庭が共通理解できるようにする。	
		⑨教員相互の授業参観や研究協議会等の研修会を年10回以上開催し、指導力の向上に努めている。	・研修係	・ICT活用についての実践発表の研修を行う。 ・グループを編成し、授業実践を互いに見合うとともに、校長参観授業の機会も利用し、一人1授業以上の実践、2授業以上の授業参観を行い、直接またはGoogleフォームを活用して意見交換をする。	A		A	・ICT活用について、情報の共有や編集、生徒への提示資料の作成等の研修を行った。 ・上記を含め、授業参観や授業検討会、実践報告会等の研修を行った。	・情報技術の革新に対応する為、引き続きICT活用の研修を行う。 ・教員の指導力向上のため、授業実践に係る研修を引き続き実施する。	

	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	⑩個に応じたコミュニケーション力の向上を目指す取組について、保護者の80%以上から満足を得ている。	・学習指導係 ・国語主任 ・各学年主任 実習係	・各授業において、あいさつ、返事、連絡、報告をしっかりとすることを教職員間で共通理解を図る。また、生徒同士の話し合い、質疑応答の場面を設定し、生徒が自分の意見を発表する機会を設ける。 ・国語では、俳句作りを推奨し、生徒が自己表現をしたり、意見を発表したりする機会を多く作る。 ・学年集会や現場実習激励会等、大勢の人の前での発表の機会を設ける。	A	A	A	・季節の機微をとらえて俳句を作る活動や、発表することを通して、自己表現の機会を増やすことができた。 ・国語の俳句作りでは、上毛ジュニア俳壇へ応募したり、かえて祭で掲示したりすることによって生徒の励みになり、より積極的に自己表現しようとする態度がみられた。 ・激励会を実習前に設け、自分の思いを他者へ伝える経験を積み重ねた。	・いろいろな形で自己表現を行えることはこれからの社会生活を考える上でも重要なことである。 ・俳句を作る授業を通し、季節の言葉や行事などを自然と覚えることができた。 ・人前で自分の意思や思いを発表する機会を作ってくれた。	・来年度も引き続き国語の授業で俳句作りを行い、生徒が自己表現しようとする態度を養っていきたい。
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑪生徒一人一人の基本的な生活習慣や健康上の配慮について、保護者の80%以上から満足を得ている。	・養護教諭 保健主事 ・担任	・月に1回保健便りを発行する。 ・定期健康診断の結果を速やかに各家庭に通知する。 ・疾病保有生徒の保護者との情報交換を密に行い、処置方法について共通理解を図る。 ・毎日の連絡ノートで保護者と情報交換し、生徒の健康状態の把握に努める。	A	A	A	・保健便りを発行し健康に関する情報提供を行った。 ・定期健康診断で異常が見つかったが未受診の生徒に対し、再度通知して受診を促した。 ・疾病保有生徒の健康状態について、随時保護者との情報交換を行った。	・保健便りを定期的に発行して、健康に関する情報提供を行うことは大切である。	・健康上の配慮が必要な生徒に対し、緊急時の対応や救急処置について職員全体で共通理解を図れるよう研修を実施する。
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑫緊急時の対応策について保護者の80%以上から満足を得ている。	・防火防災係 担任	・地震対応避難訓練、不審者対応避難訓練を年度内に1回ずつ、火災対応避難訓練を年度内に2回実施する。 ・訓練を行う前に対応マニュアルや実施要項を読むことを職員に呼びかけ、生徒が安全に避難できるようにする。 ・避難経路や避難の仕方、避難の際の注意点等について、クイズや資料を準備し各クラスで指導を行い、日頃から緊急時対応について生徒と確認しておく。 ・学期初めに非常用食料を持ってきてもらい、学期末には家に持ち帰り賞味期限、消費期限を確認してもらう。	A	A	A	・今年度は地震対応避難訓練、不審者対応避難訓練を1回ずつに加えて火災対応避難訓練を2度実施した(1度目は地震避難訓練と抱き合わせ)実施した。 ・訓練の振り返りを具体的にやりマニュアルと比較した。 ・教材についてフォルダ内にまとめ閲覧可能にした。 ・非常用食料の消費期限の確認を各学期ごとに行った。	・予定通り、避難訓練などを実施していた。 ・避難訓練を普段から真剣に行うことは生徒の防災への意識を高める上でとても大切である。 ・不審者情報などをメールで保護者に発信している。	・各教室にある避難経路の有効活用が成されるように呼びかける。 ・避難訓練の必要性を知らせるために、ビデオや演示を用いるなどして振り返り方が深まるようにする。
	8 年間を通して、計画的な生活・安全指導が行われていますか。	⑬交通安全など身を守る指導について、保護者の80%以上から満足を得ている。	・交通安全係	・駅指導や通学指導を行い、電車内や駅でのマナーを指導して、公共の交通機関を利用する上での注意喚起をする。 ・学期毎に交通安全教室を行い、自転車の乗り方や歩行場所、道路の横断の仕方について指導する。 ・保護者と協力してマナーアップ運動を実施する。	A	A	A	・公共交通機関の利用時は安全に留意することやマナーを守ることを交通安全教室等で指導を行った。全体的にマナーを守る意識が身についてきている。 ・マナーアップ運動については昨年より参加いただけ保護者が増えたので継続して連携を図ってきたい。	・公共交通機関での利用マナーが身につけてきたのは毎年の成果が表れていることと思う。 ・交通安全教室などで、自転車の乗り方や道路の横断などの指導を行っている。 ・サドルの高さやブレーキのかけ方など、細かなことは気を配ってくれた。 ・保護者のマナーアップ運動への参加が増えているのは、学校への支援が増えている証である。	・交通安全教室を1学期と2学期に行っているが、毎年炎天下での実施となっているため、生徒の体調には十分に留意して実施していきたい。
		⑭いじめの未然防止の取組について、保護者の80%以上から満足を得ている。	・特別活動係 ・生徒指導主事	・生徒会とHR委員を中心に、4月・10月・2月の年3回あいさつ運動を実施する。 ・いじめに関するアンケート調査を実施し、調査結果を教職員間で共有し全員で対応する。 ・いじめ対策委員会を頻繁に開き、生徒情報の共有を行い、いじめの未然防止及び早期対応に取り組む。 ・いじめ防止に関わる活動について、学校HPや通信等で保護者に情報発信を行う。	A	B	B	・生徒会役員が自分で考えたり選んだりしたいいじめ防止標語を、毎月昼の放送で紹介した。 ・人間関係アンケートの結果をいじめ対策委員会にて報告し、対応策等を話し合った。 ・学校HPに本校のいじめ防止に関する生徒の活動の様子を掲載し、紹介した。 ・毎月いじめ対策委員会を開き、いじめの経過報告や生徒の情報共有を行った。	・毎月、いじめ対策委員会を開催して、情報共有を行っていることはとても大切なことである。 ・iPadは生徒全員が持っているので、心のアンケートなど、生徒が考えていることを拾い上げるなど活用することが、評価Bの解消につながるのではないかと。 ・SNSでやり取りしたい時代で、企業でもスマホトラブルがある。きちんとした大人に育てていくよう取り組んでいかなければならない。	・方策としては今年度と同様の活動を行ってきたい。そして新たに、いじめ防止に関する指導例やポイントなど、具体的な情報発信を検討したい。
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	9 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	⑮社会生活に必要な力が段階的に身に付いていると感じている保護者が80%以上いる。	・学習指導係 ・普通科主任 ・総合主任 ・担任	・キャリア教育全体計画の見直しを行う。また、一人一人のキャリア発達に基づいて授業実践をする。 ・普通科では遠足を企画し、クラスでは学校周辺の公共施設や商店の利用を通じて校外活動の充実を図る。 ・総合的な探究の学習テーマ「地域を知る」「職業を知る」「自分を知る」について、自分との関わりの中で学習を進められるようにする。 ・卒業後の生活を想定し、生徒自身が主体的に活動できるような校外活動等を企画していく。	A	A	A	・普通科では、生徒の実態に応じ、電車やバス等の公共交通機関や図書館等の公共施設・学校周辺の商店を利用する校外活動を複数回実施した。 ・「地域を知る」をテーマに、3学年は伊勢崎銘仙の学習に取り組み、伊勢崎銘仙の魅力を知ることができた。2学年は宮大工の方の講話や美演を見て、現代の名工について学習することができた。	・地域について知る活動で、伊勢崎銘仙の魅力を知ることができたり、宮大工の実演を見る学習ができたことは生徒にとってとても良い学習ができたと思う。 ・楽しく学習する工夫がされている。「地域を知る」をテーマの伊勢崎銘仙の学習では、伊勢崎銘仙の着物を自分で選び、それを着てファッションショーなどを行い、楽しく地域の事を知ることができた。	・3ヶ年に渡る学習計画を立てることはなかなか難しいが、生徒にとってとても良い学習であるので、できれば来年度入学生から学習計画を立てたいと考えている。
	10 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	⑯進路情報の提供や関係機関との連携について、保護者の80%以上から満足を得ている	・進路指導主事	・学年保護者会では、就労や福祉施設利用に向けた手続きや過程を図示化して、プロジェクターを用いて提示したり、資料をカラーにしたりするなどしてわかりやすく進路情報を伝える工夫をする。 ・群馬県心身障害者福祉センターが年に2回発表している「群馬県障害福祉サービス事業所利用状況」を保護者に配付し、進路選択の参考にしていただく。 ・卒業後の生活に関する保護者向け講演会(保険・年金・福祉)等を実施する。 ・移行支援連絡会議を実施し、卒業後の生活や就労がスムーズに行くよう関係機関と情報交換を行う。	A	A	A	・各学年の保護者会や10月の進路ガイダンス①等で、就労や福祉施設利用に向けた手続きや過程を図示化してプロジェクターを用いて提示したり、資料をカラーにしたりするなどしてわかりやすく進路情報を伝える工夫をして、進路情報を発信した。 ・群馬県心身障害者福祉センターが年に2回発表している「群馬県障害福祉サービス事業所利用状況」を全保護者に配付し、1年保護者会では資料を基に説明を行い、進路選択の参考にしていただいた。 ・卒業後の生活に関する保護者向け講演会(保険・年金・福祉)を実施した。 ・11月20日(伊勢崎市メルシー)、12月2日(渋川市みずさわ)に移行支援連絡会議を実施し、卒業後の生活や就労がスムーズに行くよう関係機関と情報交換を行うことができた。	・学年保護者会が10回実施できたことは、保護者への情報提供として役立ったと思う。また、関係機関の協力を得ての情報提供も保護者にとって有用であったと思う。 ・就労までの手続きや流れを保護者会で説明を受けた。 ・学校が実習先の選定で、自力で通勤できるかが重要な検討項目の一つであると説明を受けたが、企業側も課題として捉えており、送迎等考えていかなければならない。 ・企業として特に1年目の定着支援が難しい。本人の課題もあるが、企業側が長い目で見て、ジョブコーチをつけるなど、育てていかなければならない。本人の意思も大事。それをフィードバックするためにも、学校、企業、本人を交えて、定期的なモニタリングや必要に応じてケース会議などを行ってきたいので、その時は協力をお願いしたい。 ・企業として、デュアルシステムや総合実習等の材料の提供など、協力できるところは協力していきたい。	・各学年の保護者会で、その時期に必要な内容を話していき、数回の進路ガイダンス等を実施したい。進路関係の行事が円滑に進められるよう、外部機関や関係機関、校内において関係する部や係、学年、管理職や学科主任などと連携を密にし、状況を把握しながら調整し、実践していきたい。
		⑰進路指導に対して保護者の80%以上から満足を得ている。	・進路指導主事 ・作業統括主任 ・1学年主任	・生徒や保護者の希望と実状に合わせた職業教育、就業体験等を実施する。 ・生徒の実態やニーズを把握し、現場実習先とのマッチングを図る。 ・生徒の実態に応じて、作業種や作業工程を再検討し、作業学習や校内実習の充実を図る。 ・1学年で事業所見学を実施し、就労に向けての職業観を育成する。	A	B	B	・進路先が未定の3学年の生徒は、生徒の実態やニーズに応じて、臨時の現場実習や事業所の見学等、調整して実施していく。 ・1学年の事業所見学では、先輩が実際に働いているところを見ることが、将来働くということのイメージが具体的に感じられた。 ・生徒や保護者の希望と実状に合わせた職業教育、校内実習、現場実習を行い、3年生は希望する進路を実現することができた。	・進路についての色々と工夫された取り組みを学校側が提供できていることは素晴らしいと思う。 ・地域の福祉施設として、今後も実習を受け入れていきたい。実習中の先生方も熱心に指導されていると感じている。 ・企業としても生徒を採用する上で、戦力として考えている。企業採用担当者学校見学会の参加人数からも選取肢が増え、窓口が広がっている印象を受ける。学生・保護者に選ばれるよう、企業としても考えていきたい。	・その子にあった進路が実現できるよう、本人・保護者、外部機関や関係機関、校内において関係する部や係、学年、管理職や学科主任などと連携を密にし、状況を把握しながら調整し、実践していきたい。